

2020年の音楽文化(2)

～新型コロナウイルス感染拡大から考えること～

日本大学文理学部人文科学研究所研究員

洋楽文化史研究会会長

戸ノ下 達也

●音楽界の動き

2月26日以降、演奏会の中止や延期、劇場やライブハウスの営業停止が相次いだ。音楽界では様々な動きが見られた。

3月2日には日本音楽家ユニオン、同5日には公益社団法人全国公立文化施設協会、同13日には公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、同16日には一般社団法人日本クラシック音楽事業協会、同17日には一般社団法人コンサートプロモーターズ協会と同日本音楽事業者協会、同日本音楽制作者連盟、同日本2.5次元ミュージカル協会とコンピュータ・チケット協会の5者、同19日には、オーケストラ、バレエ団、オペラ、舞踊・演劇・落語のほか、全日本合唱連盟や合唱音楽振興会なども構成員となっている芸術家会議、4月6日には日本オーケストラ連盟と、音楽・映画・美術等の21団体で構成された文化芸術推進フォーラムが、それぞれの立場で要望や声明を発表した。

これらの要望や声明は、実演家や実演団体、劇場や関係者への経済的支援、自粛要請のガイドライン策定、公演再開後の支援といった問題を、共通の課題として提示している。一刻も早い実演家や実演団体、スタッフへの経済的支援は文化芸術を存続させる上での死活問題だという深刻な叫びであるが、これらの動きが、立法や行政を後押ししていることは間違いない。音楽界が一丸となって問題を捉え、私たちはこの取り組みを支え、継続して解決策を行政や立法に突き付けていくことが望まれる。

●当面の展望 ～合唱文化に引き寄せて～

緊急事態宣言が全国に発出されている現在、新型コロナウイルス感染症の鎮静化が全てに優先される。この間の文化活動は、社会経済活動の停止と連動せざるを得ないため、従来のような公演や日常の練習等も一時停止せざるを得ないだろう。

全日本合唱連盟は、4月10日に「合唱を愛する皆さまへ」の岸理事長のメッセージで、当面の練習取り止めと自宅でできる活動に専念するよう呼び掛けている。

活動や公演の空白を埋める応急措置として、当面はネットでの動画・音声配信、リモートでの練習やヴォイストレーニング、ミーティングの実践が継続していくだろう。この遠隔性と同報性を逆手にとった配信やリモートでの取組は、今後の合唱のあり方として、新たな可能性を喚起しているが、最も危惧されるのは、ノ

合唱文化の衰退である。複数の人声を重ねて音楽を作り上げる合唱の真価を、改めて見据え、その意義を再考する必要がある。

ネットワークを通じた音楽の共有は、あくまで一つの手段であり、直接人間が集まり、それぞれの主張が渦巻いて、有機的な空気の振動となって共鳴していくという、音楽文化の本質を、凝視する機会と認識すべきではないか。五感で深秀な音の響きを受け止めることの尊さを改めて感じる。演奏会も、演奏者と聴衆がホールという楽器と共に音楽を作り出している事実を再認識し、そのために私たちは、今何をなすべきかを考えなければいけない。

可及的速やかに実施されなければならないのは、実演家支援である。クラウドファンディングや各団体への直接支援など、経済的なバックアップは、日常から音楽を享受していた、私たち愛好者一人ひとりが、実演家や実演団体への感謝として積極的に実践していく義務がある。またSNSによる支援状況や情報共有も拡充していく必要があるだろう。

行政への経済的支援を要請し続けていくことも重要だ。しかし、その際に最も留意すべきは、支援はあくまで芸術文化活動に対するものであること、行政による支援への見返りや、活動への干渉や介入を徹底して排除し、文化芸術基本法の理念である「文化芸術の自主性を尊重すること」を死守しなければならない。この点は、あいちトリエンナーレ2019の「表現の不自由展・その後」で顕在化した、行政や地方自治体、政治家のあり様や、ひろしまトリエンナーレの混乱を見れば、一目瞭然である。

●おわりに

新型コロナウイルス感染症が私たちにもたらした問いかけは、実に重い。新型インフルエンザ対策等特別措置法第32条に伴う緊急事態宣言は、私権制限を伴う事態であり、一步誤れば国家権力が濫用する危険性がある。まして、今回の感染症拡大を機に、緊急事態条項を憲法に取り込むような憲法改正論議は、本末転倒である。

私たちは、現在の問題に翻弄されず、近視眼的な思考に陥ることなく、冷静かつ科学的に、感染の終息後に到来する新たな社会のあり様を想像しながら、分断を招くことなく、他者を包摂し、柔軟かつ寛容な姿勢で、事態を受け止めていくべきであろう。そこで音楽の、合唱の果たす役割がいかに大切であるか、改めて意識していきたい。

—完—

▽新型コロナウイルス感染データ(4/23付)

世界の感染者261万1182人、死亡者18万1235人

米国ジョージア州・ホプキンス大学まとめ: カッコ内は死亡者
アメリカ: 83万4858人(4万5894)/スペイン: 20万8389人(2万1717)
イタリア: 18万7327人(2万5085)/フランス: 15万9315人(2万796)
ドイツ: 14万9401人/イギリス: 1万8100人